令和8年度 小松校区タウンミーティング 発言要旨

【日　時】令和 8 年 10 月 23 日(金)19:00～20:30
【場　所】小松公民館
【参加者】地域:13 人(小松校区連合自治会長ほか)、傍聴:2 人
　　市:市長、総務部長、産業部長、小松公民館長(司会)
【テーマ】(1) 小松サービスセンターの有効活用について
　　(2) 獣害の対策等について
　　(3) フリートーク
　　①赤い羽根共同募金について
　　②AI による特殊詐欺等に関する高齢者への啓発について
　　③ブロック塀等の撤去・耐震診断の補助金について

R8.10.23 当日の発言内容

連合自治会長挨拶

・タウンミーティングは、地域の課題や西条市の課題について、市民と行政がそれぞれの立場で、少しでも地域が良くなるような意見を交わしていく場であると認識している。
・テーマ(1)小松サービスセンターの有効活用について、現在、小松サービスセンターの職員は丁寧で親切に対応してくれているが、ハード面・ソフト面でのさらなる向上ができればと考えている。
・テーマ(2)獣害の対策等について、以前はイノシシが中心であったが、現在はサルによる被害が深刻である。お互いに意見を出し合い、地域と西条市が良くなるための有意義な場となることを願っている。

市長あいさつ

・現在、各地でタウンミーティングを開催して回っているが、最も大切なのは、山積する課題を解決するために、市民と行政が共に考え、共に行動するという前向きな議論を行うことである。
・一方で、少子化は非常に深刻で、西条市における令和 7 年の出生数は 560 人。かつては 1 学年 1,000～1,200 人ほどであった。
・来年の成人予定は約 850 人で、それと比較しても生まれた子どもの数が減少していることがわかる。

・人口減少が全国的な地方共通の課題となっており、農業の現場でも農地を「タダでもいいからなんとかしてくれ」と言われる。また、空き家の増加を目の当たりにしている。
・次世代に持続可能な西条市を受け継いでいくため、今我々が何をすべきかを共に考え、行動に移していきたい。本日は活発な意見交換ができることを期待している。

(1)小松サービスセンターの有効活用について

■ 参加者
・小松サービスセンターは多くの住民に利用されているが、本庁へ問い合わせなければその場で明確な答えが得られない場合がある。
・自治会や個人からの各種申請書類を受け付けて本庁へ送ってもらう際、書類の記載内容に不備がないかをその場で判別できず、本庁の担当者に確認しなければならないケースが多々ある。
・費用はかかるかもしれないが、サービスセンターと本庁の担当者をモニターで接続し、画面越しにやり取りして、その場で書類の修正や確認ができるような仕組みを導入できないか。

■市長
・実はモニターはすでに設置されているが、十分に周知されていなかったことは誠に申し訳なくお詫び申し上げる。サービスセンター化した際に、顔を見ながら相談できるようにと整備したものである。
・今後は、自治会長をはじめとする皆様に実際に試していただくなどして活用を進めていきたい。また、カウンター等においてモニターで本庁と繋がっていることを分かりやすく表示する。
・なお、窓口業務においては「書かない窓口」「待たない窓口」の導入を進めており、若年層向けにはスマートフォンからの各種申請手続きの構築を行っている。しかし、全員がスマートフォンを使えるわけではないため、サービスセンターのモニターを活用した対応も並行して進めていく。

■参加者
・タウンミーティング前に小松サービスセンターに立ち寄った際、1 階にモニターが設置されているのを確認した。職員からも「今日モニターを出した」と声をかけられた。
・重要なのは、設置するだけでなく、小松地区だけでなく他の拠点も含めてモニターの存在を市民に対してどのように啓発し、いかに使いこなしていくかという運用面である。

■市長
・タウンミーティング開催前に確認したところ、モニターがカウンター内に置かれていたという状況であったので、市民に分かりやすい形へと改善していきたい。

・実際の運用方法については、連合自治会長をはじめとする皆様と相談しながら進めていきたいと考えている。

■参加者
・サービスセンターの職員が本庁の担当者に対して萎縮したり、意見を言いにくいと感じたりする環境がないようにしてほしい。
・自治会レベルだけでなく、個人の用件であっても住民がスムーズに対応してもらえる環境を担保してほしい。遠方の住民やお年寄りにとって本庁に行くのは困難であるため、支所で完結できるようにしてほしい。

■市長
・職員が円滑に業務を行える体制を整える。

■参加者
・モニターの使い方は教えてくれるのか。また、サービスセンターで対応可能な手続きとそうでない手続きを表示したものがあるのか。

■市長
・職員がしっかりと対応する。
・手続きによっては、サービスセンターで対応できないものがあるので、その区分けを明確にしていきたい。

■参加者
・モニターの存在についても自治会で回覧して周知したほうがよい。

■市長
・連合自治会長と相談させていただき、モニターの存在やサービスセンターでの可能な手続きについて回覧等で再度お知らせしていきたい。

■参加者
・小松に住んでいる住民は、必ず小松サービスセンターを利用しなければならないのか。

■市長
・必ずしも小松サービスセンターを利用しなければならないわけではない。氷見の方でも小松サービスセンターや西部支所を利用されている。

（2）獣害の対策等について

■参加者

・5 月頃だったと思うが、愛護班によると、下校をしていた児童の近くにサルが 5、6 匹出没し、襲われたという認識はないようだが、子どもが泣いて帰ってきたということだった。
・また、集会所近くの敷地の広い家庭菜園等でも被害が出ている。
・インターネット等でサルの生態について調べたところ、いくつかの特徴が分かった。
・サルの寿命はおおむね 20 年ほどで、また、5 歳頃から毎年子どもを産む。そのため、人間の人口減少とは反対に、サルの数は激増していると肌で感じている。
・資料を集めている中で、対策として「モンキードッグ」による追い払いが効果的と知った。
・また、過去にハクビシンを箱わなで捕獲した際に、市の対応が「捕まえた後の殺処分は自分たちでやってくれ」というものだった。
・自分で殺処分をするとなるとマンパワーがいるので、もう少し温かい指導や対応をお願いしたい。
・サル被害を防ぐための防護柵などの補助金について、個人単位での申請が可能なのか制度の仕組みを知りたい。

■市長

・橘校区では、地域で協力して高さ 2.5m×横 4mの「地獄檻」を設置したところ、令和 8 年度までに 57 頭捕獲した。
・飯岡校区でも同様に、サルの生態を知るために専門家を呼んで勉強会を開催した。小松地区でも開催したいと考えている。ぜひ実施に向けて前向きに進めていきたい。
・ニホンザルは県内に広く分布しており、西条市内においては人里近いところで被害が出ている。その対策を進める上では、大前提として地域の皆様の協力が不可欠である。

【勉強会の内容を説明】

・約20～150 頭の群れで行動し、10～3 月が交尾期で、出産が 4～8 月。平均寿命は約 10 年。近年温暖な気候なので、冬に子ザルが死なない。
・毎年出産可能となり、頭数が増加している。また、森林が生い茂っていることも増加の要因である。
・放置農地が増え、山沿いは特に人が減少し、管理がされていないことでプレッシャーがかからなくなった。
・対策としては、まず「敵（サルの生態）を知る」ことが何よりも重要である。
・こうしたサルの繁殖特性や群れの行動範囲をしっかりと踏まえる必要がある。
・追い払いだけではサルは減少しないので、放置された柿や果樹の早期収穫や伐採を行うことである。次に、お墓のお供え物をそのまま放置せずに必ず持ち帰る。

・こうして、サルのエサとなるものや安全な隠れ場所を徹底してなくす。このような環境整備が不可欠である。
・人間側がサルの繁殖力や学習能力といった生態を正しく理解する。そして、地域全体でエサを与えない・寄せ付けない環境を作る。それが被害を食い止める第一歩となる。
・有刺鉄線はサルには効果がなく、ワイヤーメッシュとその上に電気柵があれば効果がある。
・追い払いも地域一体となって複数人で徹底的に行う。
・オスのハナレザルは厄介である。
・今年度の傾向としては、昨年木の実が豊作であったため、子どもが多く生まれた模様。
・大きな行動圏で 100 平方キロメートルになることもある。
・他県の事例では、サルがいなくなるまで徹底的に追い払うといったことをしているようだ。

■市長
・まずは小松地域でも勉強会をやっていただきたい。
・補助金制度についても、申請方法について考えていきたい。

■産業部長
・現状としては、檻や電気柵の設置に対する補助金制度については、上限 5 万円となっており、個人での申請が可能である。まずは林業振興課へご相談いただきたい。
・次にモンキードッグについて、基本的にノーリード（首輪が繋がれていない状態）で山に放つので、児童等の安全面を十分に配慮する必要がある。フェンスを張るなどの対策がいるので、地域で十分に話し合いを重ねる必要がある。
・専門家からアドバイスを受けることができるので、林業振興課に相談いただきたい。

■市長
・地域全体で取り組まなければいけない状況になってきている。
・今後は連合自治会を通じて進めるほか、地域の中で専門のチームなどを組んで対応していく必要がある。
・補助金制度についても、時代に合わせて変えていきたい。
・地域住民がチームで活動できるような仕組みをこれから作っていきたいと考えているので、様々な意見交換をさせていただきたい。

■林業振興課
・ハクビシンの捕獲については、「鳥獣保護管理法」により自治体の許可が必要となり、自身の土地や農地において小型の箱わなを使用する場合は、狩猟免許が不要である。
・捕獲した後の処分についても基本的にはご自身で処分まで行っていただくこととなる。

■参加者
・他自治体の有効な事例なども参考にしてはどうか。

■市長
・そういったことも含めて勉強会をさせていただきたい。

■参加者
・「住民全員がサルの生態をしっかりと知る」ことが大事であるという市長の言葉が身に染みた。

■市長
・昔と今では生活環境が大きく変化している。一朝一夕で解決できる問題ではない。まずはサルの生態を知って、小松以外の地域を含んだ中山間部で地域ぐるみで組織的に押し返すような気持ちを持って取り組んでいきたいので、協力願いたい。

■参加者
・サルは駆除対象なのか。

■市長
・駆除対象である。

■参加者
・自分の地域では、ハナレザル1匹が出没し農作物に被害が出たため、煙火をもらいに林業振興課に相談に行ったが、煙火はどこでも使用できるわけではないと聞いた。また、申請者が講習を受ける必要があったので、断念した。
・林業振興課からは、みんなで大声を出して追い払うのが効果的と聞いた。

(3)フリートーク

① 赤い羽根共同募金について

■参加者
・他地域において事務局長が着服していたということが報道されたが、西条市ではそういったことはないか。

■市長

・西条市ではそういったことはない。あってはならないものである。

■参加者
・その影響により善意で募金を集めている組長や班長に対し、住民から「今年は募金を出さない」といった声が寄せられている。
・協力をお願いしている身としては、非常に心苦しい思いをしている。西条市は安全であることを示す力強い啓発を行ってほしい。
・募金の依頼文は回覧しているので、各世帯に対して先ほどおっしゃったことを分かりやすく文書で発信してほしい。

■市長
・赤い羽根共同募金は戦後から続いており、この瞬間も支援を待っている人がいる。この趣旨をぜひご理解いただきたい。
・ただ、今回の案内文において配慮が足りなかったと反省する部分もあるので、今後はより分かりやすい依頼文書の発信等に努めるよう社会福祉協議会にもしっかりと伝える。

② AI による特殊詐欺等に関する高齢者への啓発について
■参加者
・AI 技術などを悪用した特殊詐欺や個人情報流出のニュースを連日耳にする。
・電話に出ないことが望ましいが、市として高齢者を中心に指導教育をしていただきたい。
・自分の地区ではいきいき体操をしているので、そういった場に市が直接赴いて指導等を行っていただけないか。

■市長
・市報でも周知しているが、今後高齢者が集まる場等で啓発活動をしていきたい。
・現在、PHP の脆弱性により現在利用できないものがある。

■シティプロモーション推進課
・市ホームページの一部脆弱性に関し、バナー広告やメール送信機能等に影響が出ている。
・現在、委託業者とともに早急な復旧に全力を挙げているところである。
・詳細な状況や最新の情報については、LINE や SNS 等で周知を行っているので地域の方々への正確な伝達について、ご協力いただきたい。　　→　現在復旧済み

■公民館長
・小松公民館だより 10 月号の「駐在さんのつぶやき」コーナーで、インターネットや SNS 利用

時の注意喚起をしている。

③ ブロック塀等の撤去・耐震診断の補助金について

■建築課

・市では、危険なブロック塀の撤去ややり替えに関する補助金制度がある。今年度の補助金の枠がまだ残っているので、自治会長の目で見て気になる箇所があれば、建築課へご相談いただきたい。

・また、昭和 56 年以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施している。

市長総括

・小松地域は、クラシックカーニバルやふるさと祭りなど、地域が一体となって様々な活動に取り組んでいる非常に素晴らしい地域だと思っている。

・しかしながら、少子化や人口減少の波が押し寄せ、今までにない深刻な課題が次々と起きているおり、この課題は、市役所だけでもあるいは地域だけでも解決することは難しい。

・誰かのせいにするのではなく、みんなで知恵を出し合って解決の仕組みを作り、地域力を次の世代にしっかりと引き継いでいきたい。

閉会あいさつ

・本日の話し合いを通じて、地域の様々な課題に対しては、私たち市民と行政が官民一体となって取り組む必要があることを改めて感じた。

・連合自治会としても、本日挙がった諸問題について、勉強会をしていきたい。